

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	サポートハウスごらく
(ユニット名)	2ユニット目
所在地 (県・市町村名)	愛知県名古屋市名東区極楽2-232
記入者名 (管理者)	宮本亜由美
記入日	平成 19 年 5 月 12 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念の中に認知障害になった人でも当たり前の生活を送られるように心掛けている、とある。グループホーム入所後も社会との関わりを継続できるよう自宅近所へのつながりをサポートしている。</p>	○ 今後も積極的に地域との関わりを持っていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念は常に目の届くところに掲示し、常に意識しながら支援している。「当たり前の生活」が出来るように手を掛け過ぎず皆で一緒にゆっくり楽しく生活できるよう心掛けている。</p>	○ 日々のケアが理念の下に成り立っていることや自分自身の課題を考えられる職員教育を続けていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域の行事(祭り・清掃等)には積極的に参加したり、施設の行事には地域の方々やご家族に参加して頂き交流を深めており、理解を得ている。</p>	○ 今後も様々な機会を設けて説明だけでなく、近隣や家族からの意見を聴いていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣地域の方々との交流の機会をつくるためにも近所の方々の散歩時(犬の散歩等、人が多い時間)や、利用者とのゴミ出し、施設周りの清掃等を積極的に行っている。また立ち寄りやすいように玄関周りに花を置いたり雰囲気作りに配慮している。</p>	○ 円滑な関係が継続できるように、日頃からコミュニケーションを図り、地域住民として行事への参加を続けたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域活動(祭り・清掃・消防訓練等)には積極的に参加し、交流を深めている。行事等では利用者に特別に席を設けて頂き、協力を得ている。</p>	○ 今後も地域の一員として、利用者、スタッフ共に地域を知る、また、グループホームを知ってもらおう活動を続けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設長が地域からの要望による講演会を行っている。また、県のグループホーム連絡協議会副会長を務め講演を通し指導や助言を行っている。	○	一般職員で地域に貢献できることを話し合い、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義については会議等で説明をし理解を得ている。 また過去の評価結果は皆で共有し改善・反省会を行った。	○	今後もケアに活かせるよう継続していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見要望については職員で話し合い検討している。要望をケアに入れるように心掛けている。	○	次回の運営推進会議では外部評価の取り組みと結果の報告を行い、意見交換などを行いたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困ったことや、わからないことを介護指導課に随時相談し、必要があれば足を運んでいる。	○	今後も継続したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	随時行っている勉強会でテーマに取り上げて、皆で学び、支援している。家族からの相談には制度の活用や説明を行なっている。	○	今後も継続したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時行っている勉強会でテーマに取り上げた。 利用者の心身のこまかな観察には手を抜かず注意を払っている。また介護者にストレスがたまらないよう、介護者の息抜きも忘れない。	○	職員が仕事上で悩んでいる時、内容や状況を把握し、これまで以上にこまめにフォローを続けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>誤解が生じないように、契約前には細かな面談や話し合いを行い、理解・納得を得ている。また、契約書もわかりやすいものであるよう常に見直しを行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や苦情については内・外部の連絡先を重要事項説明書に明示しており、本人にも説明している。また、管理者が意見・苦情を聞く機会を設けており、言った本人の気持ちに配慮を行い、会議で話し合う体制を取っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>訪問時には日々の状態を欠かさず報告し、必要に応じて電話連絡をしている。また月1回「通信」を郵送したり、行事を定期的に行い参加して頂くことで現状を理解して頂く機会にもなっている。</p>	<p>○</p> <p>家族とこまめにコミュニケーションを取ることを継続したい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>訪問時には日々の状態をかかさず報告し、意見をいいやすい環境を設けたり、担当者を明確にし、窓口をはっきりさせ、誰に言えればいいか…という混乱を防いでいる。頂いた意見はすぐに会議をひらき、対処している。</p>	<p>○</p> <p>今後も意見や要望を言ってもらえる、聴くことができる環境を心掛けていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の定例会議や日々コミュニケーションを密にとることで意見を聞く機会を設けている。また出た意見はすぐに役職会議をひらき、対処方法を考え反映させている。職員にも協力・理解を得ている。</p>	<p>○</p> <p>今後も意見や発言ができる環境作りに努めたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>基本的な勤務時間は決まっているが、利用者の状況・要望に合わせて臨機応変に勤務調整を行っており、職員の理解も得ている。</p>	<p>○</p> <p>職員に対しての配慮やフォローを続けていきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者のダメージが予測される異動等は極力控えている。また近隣に同じ法人が営むグループホームが3施設あり、常日頃から利用者・職員との交流も深めており、誰もが顔馴染みでいる環境作りをしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も状況を熟知し、利用者負担のない適材適所の配置を心掛けていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	研修は段階に応じ随時受けさせている。場合によっては職員に参加を募り、学びの窓口を広げている。また施設内でも新人研修他、随時行い実践につながる指導を取り入れている。職員がスキルアップをしやすいうように、資格取得制度も設けている。	○ 常に向上心を持ち、仕事に取り組み、研修が活かされるように、促しや気持ちを高めるような指導を続けていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区別の意見交換会に参加したり、就業後の事業者同士の県下のグループホーム協会に加盟し、施設長が副会長を務めていることから、食事会にも積極的に参加して情報交換を行っている。	○ 今後も交流を深め、情報交換や相談を行ってきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	随時コミュニケーションを密にとれるように場を設け、話しやすい環境をつくっている。ストレス軽減のため休憩や休暇の配慮、また職員たちによる「親睦会」を設け、定期的に飲み会や勉強会、年1回の慰安旅行を行い、息抜き場を作っている。	○ 職員の心身の状態を気遣う環境や相談のできる雰囲気作りを続けていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々コミュニケーションをとり、長所・短所等の把握に努め、各自の長所・特技が勤務に生かせるよう取り入れている。例えば行事の準備や担当等、「まかせる」ことで「やる気」を起こす場を作っている。	○ 今後も継続し、活気ある職場であり続けたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約前には必要に応じて数回面談を行い、本人の希望をきく機会を設けている。見学もいつでも受け入れる体制をとっており、本人が納得できるサービスの提供ができるようにしている。	○ 今後も本人のペースやニーズの把握に努め、安心した穏やかな生活が送れるように援助していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人同様、契約前には必要に応じて数回面談を行い、ご家族の希望を聞く機会を設けており、サービスに受け入れるようにしている。見学もいつでも受け入れ、施設の方針の理解を得、信頼関係を築いている。	○ 家族が安心して過ごせるように様々な問題に誠心誠意対応し続けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、申し込みの際、他のホームなどもよく見てきてもらい、本人家族が納得できる、信用できる場所を探し、考えてもらうようアドバイスしている。又、ニーズを把握し、入所以外の選択肢についても説明を行っている。	○	今後も様々なサービスが存在すること、合ったサービスの見極めなど、家族が選択できるように相談に応じてサポートを続けたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前や入所前等いつでも見学できる体制をとっており、利用者・職員との交流が出来、不安解消に努めている。またその際、要望等を聞く場を持ち、納得した上で利用できるようにしている。	○	今後も継続したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当施設の理念である「ゆっくり、一緒に、楽しく」をモットーに職員・利用者間だけでなく、利用者同士の間でも助け合って物事を行うよう支援している。行事等では皆で同じ体験をし、絆を作る環境を作っている。	○	今後も利用者・職員共に助け合い、生活を送っていきける環境作りに努めたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	小さなことでも報告をかかさず行い、必要に応じて協力を得ている。定期的な行事には参加を求め、現状を把握する良い機会となっている。家族だけでは外出が難しい利用者でも、必要な時に介護者がケアを手伝い、皆で支えあっている。	○	今後も家族と連携をとって、利用者を支えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今まで疎遠であった家族、親戚、兄弟姉妹が親の入所をきっかけに、施設での集いが度重なり、昔の良き家庭環境が再現され、その輪に職員も加わり、より良い関係を築き上げている。	○	今後も継続し、円滑な関係が維持できるようにサポートしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に関しては施設では訪問時間を特別に決めておらず、24時間365日いつでも受け入れられる体制をとっており、どんな方にも訪問しやすい環境をつくっている。場所については散歩がてらドライブを試みたり食事をしたり支援している。時には家族の協力を得ている。	○	馴染みの人との関係は家族との関係同様、今後も大切にしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の個性を認め、時には職員が間に入りサポートしている。他利用者への影響を常に考えながら利用者へのケアを行っている。	○	共同生活の良さを活かしたケアを今後も続けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	気軽に訪問できる環境作りに努めている。定期的に電話連絡をし、近況報告をし合ったり、施設の行事参加へ声を掛けたりしている。	○	今後も継続していく。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約前・入所前にまめな面談を行い、把握に努め、サービスに生かしている。困難な場合、誰かの意向に偏らないよう、家族・職員皆で考え、検討している。	○	今後も継続し、言葉だけでなく生活の様子や表情などからニーズをくみとっていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前・入所前にまめな面談を行い、把握に努めている。過去のサービス利用の不満点等が当施設で改善できるようより良いサービス提供のための情報源としている。	○	今後も継続していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の1日の過ごし方や状況をこまかく記録しあとからも見直せるものとして残してある。またそれを基に介護計画を立てている。	○	今後も過去の状況や、本人が望んでいる暮らしを把握し、援助を行っていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のこまかな観察、現状を把握し、皆で話し合い作成している。日頃から本人や家族との情報交換はまめに行っており、随時、意見交換を行っている。	○	今後も変化するニーズにその都度、臨機応変に対応できるように、情報交換や現状の把握に努めていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日頃より家族・本人とのまめな現状報告は行っており、小さな変化が生じた場合も見直しがしやすい状況になっている。機関に関係なく随時見直しを行い、サービスの質の向上に努めている。	○	今後も変化するニーズにその都度、臨機応変に対応できるように、情報交換や現状の把握に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を1日の流れとともに小さな変化、状況をこまかく記入している。また職員だけではなく家族とも情報を共有しやすいように、誰が見ても分かる記述の仕方に注意している(専門用語を避ける等)。	○	今後も継続していく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に合わせ、ユニットごとで行えないことや一緒に取り組みたいものを2ユニットで協同で行い場合によっては3施設合同で行い、行事等盛り上げている。	○	今後も継続し、横のつながり(ホーム同士)を大切にし協力を行っていく。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア(読み聞かせ、歌など)を定期的にお願ひし、喜ばれている。また、消防訓練等、消防署と相談・助言をもらい行っている。	○	今後も継続し、積極的な働きかけを続けていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて名古屋市内の居宅と相談を行っている。まかせきりにせず、ニーズの把握に努めている。	○	今後も継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて連絡相談を行っている。家族に相談先を伝えたり、媒体となり関わっている。	○	今後も継続していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の検診だけではなく、本人の状態や家族の要望に合わせ、かかりつけ医と話し合いの場をセッティングし、不安等解決に力を入れている。	○	今後も家族がホームだけでなく、直接かかりつけ医と相談できる場を設けていく。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	基本的に月2回、かかりつけ医の往診があり現状を報告したり、相談にのってもらっている。また電話相談や必要に応じて随時往診に来てもらい、柔軟なサポート体制をとっている。	○	気軽に相談したり、指導を受けられる環境を継続できるように、まめに相談、報告を続けていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週1回定期的に利用者の健康チェックや状況確認、相談を行っている。また必要に応じ、いつでも連絡を取り合っており対応している。	○	気軽に相談したり、指導を受けられる環境を継続できるように、まめに相談、報告を続けていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、家族だけでなく担当医、看護師に状態の確認を行っている。こまめに情報交換し、早期退院に向け対応している。また、ホームの受け入れ体制も適時整えており、職員にも説明を行っている。	○	今後も家族の相談にのり、本人にとって一番良い環境で過ごせるように(ホームに戻るだけでなく)支援を続けたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	全体的には書面にて契約時に方針を決め共有しており、運営推進会議でもかかりつけ医を含め、説明、話し合いを行った。	○	今後も本人、家族が不安にならないようにしっかり説明し、重度化、見取り等の体制を維持していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医の柔軟なサポート体制もあり、皆で支援に取り組んでいる。定期的に行っている勉強会にテーマとして取り上げ、職員の指導も行っており、体制を整えている。	○	今後も家族への説明や協力を呼びかけ、本人が穏やかに生活できるよう、医療連携についてもよりよい支援が継続できるようサポートしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所前に本人の生活スタイル等、家族や医療関係者等から情報としてもらっている。ホームでどう対応していけるのか話し合い、対応している。退去に関しても同様、情報の共有を行う。	○	今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者の個性の把握に努め、一人一人にあった声かけやケアを行っている。施設内の掲示物や通信等、家族に了解を得るようにし、個人情報保護に努めている。	○ 今後も気配り、心遣いをもって不快を与えない対応を心掛けていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々利用者本位のケアに努めている。分かりやすい説明を心掛け、日常の小さなこと、例えば食べたいおやつ等でも自分で決めたことの喜び、納得ができるよう支援している。	○ 今後も自己決定を尊重し、サポートしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々利用者本位のケアに努め、1日の起床から就寝に至るまでの流れを利用者が作り上げていけるよう支援している。	○ その人らしい暮らしが当たり前に送れるように希望確認や柔軟な対応を継続していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の個性を大切にしており、化粧にこだわる方、衣服・髪型にこだわる方、それぞれに対応している。必要に応じ、ご家族に協力を得ている。その日の服装選び等も極力利用者にまかせている。	○ 今後も継続し、その人らしさを尊重していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存機能を生かしながら、得意なこと、出来ることを皆で協力しながら行っている。どちらかと言えば、利用者が主で動くことがほとんどである。自分の仕事と思っている人も多い。	○ 食事作りからトータル的な関わりを持ち、楽しみや自信につなげる援助を続けたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人と一緒に買い物に行き、本人に選んでもらった品物を好きな時に楽しめるよう援助している。また、家族から預かった嗜好品についても本人と相談し、希望を聞き、提供している。	○ 今後も継続し、嗜好の把握に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日々の個々の記録を基に排泄パターンの把握に努めたことにより、失敗やおむつの使用が減っており、本人の負担の軽減につながっている。	○	個人個人の快適な排泄方法を把握し、今後もとりにくんでいく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入所前の面談時に要望をきき、取り入れたり、その日の本人の気分によっても変更している。毎日入浴する方や夜間入浴の方も数名おり、随時希望に応じて対応し、支援している。	○	今後も継続し、その日その日の気分に合わせて対応していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活習慣を個人の記録を基に把握し、家族へ協力を得て状況を把握しながらケアをしている。例えば寝る前の談話の時間を作ったり、枕元にぬいぐるみをおいたり、個々に合わせ対応している。	○	今後も継続していく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所前の面談時に過去の経歴について把握に努めたり、日々いろいろなことを提供し、本人に合った支援を行っている。自分の仕事として何かあると張り合いとなっていることが多々ある。	○	今後も継続していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時等お金を使用する状況では極力利用者にかかせるようにしており、お金の所持、使うことの機会を設けるよう配慮している。家族にも協力を得て、家族との外出時もそのように対応して頂いている。	○	支払いなど個人の能力に合わせた援助をつづけていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気晴らしのちょっとした散歩や外出はいつでも対応できるよう支援しており、職員全員が心得ている。	○	今後も継続していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に行事を行っており、その際は家族の参加を呼び掛けていて、介護が出来ないから利用者との外出が出来ないご家族もこういう機会を利用している。またちょっとしたドライブ等も日々出掛け、引きこもりを防いでいる。	○	今後も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、支援している。 電話や手紙のやり取りを通じ、疎外感・孤独感の防止にも努めている。	○	今後もニーズに合わせて対応していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰もが訪問しやすいように訪問時間を決めておらず、24時間365日受け入れ体制でいる。 そういう訪問が利用者にとって喜びにもなっている。	○	馴染みのある方への声掛けや働き掛けを続けていく。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会議や日々の指導を通じ、理解を得ている。 また随時勉強会を行ない、利用者にとってよりよいケアの実施に努めている。	○	今後もこまめに勉強会や指導を行っていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	定例会議や必要に応じて勉強会・指導を行い、理解を得ている。また必要性のないことから利用者の居室に関しては鍵そのものがない戸になっている。	○	今後も継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の尊重を基本として安全に暮らせるよう常に何をしているか把握している。また、日々把握をするよう職員への指導もかかさない。	○	安全についてハード面、ソフト面、両面から配慮や対応を続ける。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	常に利用者の行動の把握に努めており、物品を隠すことは一切ないが、手を掛け過ぎず、利用者の自立性を養うこととして、個々に応じ、環境を整えている。	○	今後も継続していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定例会議や勉強会、研修会等で知識を学び、皆で共有し、取り組んでいる。また、ひやりはっと報告も常に情報を共有し、事故防止に努めている。	○	今後も事故についての分析を行い、予見できることであれば未然に防げる体制をとっていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や消火器訓練は、勉強会や実際に体験し学ぶ機会を設けている。	○	今後も継続し、あわてず、冷静な対応ができるようにする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策については何回もロールプレーをし、いろいろなケースにも対応できるように常日頃から取り組んでいる。	○	災害時、地域で協力が行えるような体制を確保していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日頃よりささいなことも家族等に報告するよう努めており、利用者にとって心地よい暮らしの提供に配慮している。懸念されることは前もって家族等に相談し対応策をたてている。	○	日頃からの家族との報告、連絡、相談を続けていく。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃から観察をかかさず小さな変化に気づくよう努めており、記録にも必ず残すようにしている。変化には早急に対処し、事が大きくならないように対応している。	○	今後も継続していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は誰もがみれる状態にしており、理解をしている。また日々の小さな変化にも見逃さないよう努めており、気になったことは随時かかりつけ医に相談・連絡をしている。	○	今後も継続していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	何事も極力薬に頼らないというのが施設長の方針になっており、その考えは職員全員が理解している為、食事や運動、生活習慣から予防・対応に努めるよう取り組んでいる。	○	今後も薬に頼らない取り組みを続けていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食前に風邪予防を兼ねた手洗い、うがい、食後の口腔ケアは本人・職員の習慣となっており、支援に努めている。	○	今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の記録やその時々の情報交換を元に把握をしている。また摂取しやすい味、形態、環境に配慮している。	○	安全においしく食べてもらえる工夫を今後も検討していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	市からの指針があり、それに沿って勉強会を行っている。又、日常的に確認ができるようにスタッフルームに置いてある。	○	一年を通して注意するもの、季節に応じて注意するもの、その時に合った内容の勉強会を続けていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的、または必要に応じてこまめな清掃を行っており、清潔に心掛けている。また食中毒予防の調理法を行い安全管理に努めている。	○	基本的な手洗いなどを確実にを行い、安全かつ衛生的な管理に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るく、オープンな玄関周りを意識している。玄関周りは花を植えていて、一日数回利用者が出入りし水やりをする等、親しみやすさに心掛けている。	○	今後も利用者も来客も喜んでもらえる環境作りに努める。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共同で作った季節の壁面飾りを取り入れたりくつろぎの場では昔のなつかしい曲を流す等心地よい空間作りに努めている。	○	今後も利用者も来客も喜んでもらえる環境作りに努める。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダでのお茶会やTV前にソファを置いて談話する等、空間作りに配慮している。また、椅子やテーブルを運んで即席で空間を作ったり、その場に応じた対応にとりくんでいる。	○	今後も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に家族に説明し、使い慣れたもの、愛着のあるもの、大切にしているもの等を持参して頂くようにしており、心地よく過ごせるよう努めている。	○	今後も本人のニーズに合わせた環境作りに努めていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日々まめに注意するよう指導しており、職員も心得て対応している。	○	今後も継続し、不快や病気につなげないよう心掛ける。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合わせた居室内レイアウト(配置やベッドの種類等)がなされており、混乱や機能低下を防止している。	○	今後も個人個人の状態を把握し、その時に合った安全な環境作りを臨機応変に行っていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱のないよう個々に合わせた声掛け、対応に心掛けており、手を掛け過ぎないケアに努めている。必要に応じて物に分かりやすく明記する等、細かな配慮に努めている。	○	今後も継続していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者が楽しめる花壇や畑の充実に努めたり天気の良い日はベランダでお茶や食事をする等ケアに活かし、生活して頂いている。	○	今後も利用者のニーズに合わせた環境作りに努めていく。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の
		②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念にも掲げてあるように「当たり前の生活を」「ゆっくり、一緒に、楽しく」を日々大切にしています。介護者本位のケアにならないように常に考えており、利用者のペースを大事にしています。また介護はおむつ交換や食事介助だけでなく利用者を笑顔にすることが第1だとしており、行事には力を入れています。メインの行事である運動会は団結力にもつながり日々の生活に活かされている場面の1つにもなっております。